

じえ

おちた

かみない

じえ じえ じえ

せつつむかしはなし

# おちたがめなり

うつきしゅうほ・ぶん  
もりたみきお・え





むかしむかし  
かみなりが あばれて  
「ひかっ」  
「ころっ」  
「どすーん」  
おちては ひどをころし、  
かじを おこしよった。





ちようしに のって「びかっ」「どすーん」と  
おちよったら、そこは たかつき。  
たいこを こしらえてる おやっさんの  
にわさきの いどのなか——  
おやっさんは おおきな  
たいこのかわを もちだして  
いどにかぶせて、たいこみたいにい  
てつのくぎで、うちつけてしもうた。







とじこめられた かみなりは

てんへ かえれへん。

「やい、あける」と となりよったが

おやつさんは

「あばれものの かみなりめ。かくこせえよ。」





「わあ、みみが いたい。」

かんにんしてえ」

「ふん、そんなら もう「どと

たかつきへは おちやへんか」

「はい、こんな こわい

たかつきへは 「どと







それから、たかつきは

かみなりが おちんように なった。

けど、ときどきは

たかつきの そらを とおりよる。





「わあ きれえやなあ」

みどれてるうち、あし すべらして

ついらくしよった。

「しもた。あかん。」

ここは おちたら あかんとこや」

かみなりは ちいそなりながら おちて、



ものすこや ちねえや

ひよいと よこをみたら

そらでは まつくろけの くもになつてる あめが  
きれえな はなの そばにきて ようすしてるんか  
はっぱの うえで

ぎんいろの みずたまになつて

「ころころころころころ」

「わしは はだかで とらのかわの

かんだん ああ はずかしなあ






かみなりが なかで  
ばくはつしよった そのときから  
でけてしもうた。  
ほんまやで。







くきのなかへ はいって、したへ おりて、  
どろのなかの ねっこまで きてしもうて……

「まっくらがりや、こら かなん。なんで こんなめに  
あわんならんねん。おもろない」

しんぼ しきれんと、とうとう

「ばあーん」

ばくはつして てんへ かえっていきよつた。

おわり

